

「第2期健康くるめ21」計画推進協議会議事録 要旨

- 日 時 : 平成30年3月26日(月) 19時00分から20時30分
- 場 所 : 久留米市庁舎3階 303会議室
- 出席者 : 出席委員13名, 欠席委員 6名
- 傍聴者 : なし
- 次 第 : 1. 開会
 - 2. 議題 (1)計画の中間評価について
 - (2)計画の分野別評価について
 - ①「生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底」について
 - ②「健康に関する生活習慣の改善」について
 - ③「こころの健康づくりの推進」について
 - ④「個人の健康を支える環境の整備」について
 - ⑤「すべての子どもが健やかに育つ社会環境の整備」について
 - (3)その他
- 3. 閉会

○質疑応答要旨

議題(1) 計画の中間評価について

『意見なし』

議題(2) 計画の分野別評価について

① 「生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底」について

委 員:乳がん検診の受診率の悪化は、無料クーポン券の対象者が縮小したことによるとの説明であったが、縮小に対して受診率を向上させる対策は何かあるのか。

事務局:無料クーポン券の対象者縮小については、国の制度変更に伴うものである。乳がん検診の受診率向上対策としては、未受診者勧奨ハガキの送付や、受診者及び検診スタッフを全て女性に限定したレディースデーの開催などを行っている。

② 「健康に関する生活習慣の改善」について

委 員:健康運動を指導している職業柄、靴の履き方が適切でないことにより、ウォーキング中に、足や膝を痛める事例に接することがある。安全で効果的なウォーキングを行うにあたっては、靴メーカーとの連携も必要ではないのか。

事務局:市内の靴メーカーには、つつじマーチにおいて足形測定を行っているところもあることから、校区ウォーキングにおいても同様のことが可能かどうかについて、近々相談を行う予定としている。

委員:母子健康手帳の交付は、母親以外に、父親や家族に対しても可能なのか。

事務局:原則、母親に対して、専門職による個別面談を行ったうえで、交付している。

委員:乳幼児のむし歯に関しては、乳児期の授乳姿勢などによりむし歯が増えているとの情報を聞いたことがある。乳幼児期の歯科健診の実施においては、このような啓発を行われてはどうか。

事務局:歯科医師とも相談のうえ、対応を研究していきたい。

委員:未成年者の喫煙をなくすために、小・中学生を対象とした「たばこと健康教室」が行われているが、小・中学生への啓発よりも、周りにいる大人の喫煙状況の改善が必要と思われるが、いかがか。

事務局:喫煙については、健康増進法が改正され、受動喫煙の対策が強化される。そのため、市では、小・中学生への啓発と合わせて、この対策にも取り組むことにより、喫煙環境の改善を図っていききたい。

③ 「こころの健康づくりの推進」について

委員:うつ・パニック障害は、鉄分不足が原因であるとの内容を本で読んだことがある。そのため、女性がうつになりやすいのも、出産等による鉄分不足が影響していると思われる。うつ対策のためには、栄養面でのアプローチも必要ではないかと考えるので、今後の取り組みの中でこうしたことも意識してもらいたい。

④ 「個人の健康を支える環境の整備」について

委員:校区ウォーキングなどの機会に、運動と栄養の相関に関する情報提供を行うと、より効果的な取り組みになるのではないか。

事務局:校区ウォーキング大会の際には、地区担当保健師が、健康相談を行っている。今後、運動と栄養の組み合わせた取り組みについても、検討していきたいと考えている。

⑤ 「すべての子どもが健やかに育つ社会環境の整備」について

委員:発達障害までには至らない乳幼児に対しては、育児支援教室において支援が行われていると思われるが、その中にハイハイなどの有用性を啓発すれば、育てにくさを感じたときに対処できる親の割合を向上させることができるのではないか。

事務局:久留米市では、乳幼児健康診査等を通じて、乳幼児の健全な育成に取り組み、また、育児支援教室や各種相談による支援、さらに必要に応じて、幼児教育研究所にも繋ぎながら、切れ目のない支援を行うことにより、育てにくさを感じたときに対処できる親の割合の向上を図っている。

委員:乳幼児へのスマホや教育用 DVD などの一方的なメディアの付与は、自閉症的な傾向があらわれやすくなるとの情報を講演で聞いたことがある。そのため、メディアが乳幼児に及ぼす影響も啓発していく必要があるのでは。

事務局:今後、研究していきたいと考えている。

委員:妊娠・出産について満足している人は、8割だが、残り2割の人は満足していないことになる。この理由について把握を行っているのか。

事務局:妊娠・出産について満足していない人の理由については、把握していない。

委員: ゆったりした気分で子どもと過ごせる時間は、母親だけでなく、父親の状況も把握したほうがよいのではないか。

事務局: ゆったりした気分で子どもと過ごせる時間に関する指標は、国の「すこやか親子 21」に基づき、母親の割合のみを把握している。

委員: 発達障害を知っている市民の割合は、4 か月 健診のアンケートでの調査結果なのか。

事務局: 中間評価のための健康に関するアンケート調査の結果である。

委員: 産後ケア事業の中で産褥体操の啓発はできないのか。

事務局: 産後ケア事業は市民のニーズに応じたケアを実施している事業であり、産後の支援としての訪問の中で啓発をしていく。

議題(3) その他

『意見なし』